



糖尿病タイムズ



第5号（平成29年 2月16日発行）

2月に入り一段と寒さが増してきましたが、体調を崩されていませんか？
お正月、新年会に続き節分と、食生活の管理も難しい時期と思います。例年この時期はHbA1cの値が上昇する方が多く見受けられます。
今回、そんな血糖値管理の重要アイテム自己血糖測定器の今昔物語を少し紹介いたします。

あなたは自己血糖測定器の歴史をご存知ですか？

1960 年頃 試験紙法 発売

1970 年頃 光学反射率を利用して測定する測定器 発売

試験紙：血液の除去操作⇒水洗いが必要

（血中のブドウ糖と試験紙に含まれるブドウ糖酸化酵素との反応を、水洗いによりストップさせ、その色調を光学的に読み取る）

1980 年頃 水洗いではなく、拭き取りにより反応をストップさせる技術が開発

1984 年 **拭き取り式血糖測定器発売**

1985 年 **自己血糖測定器 保険適応**

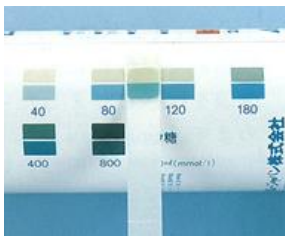
1986 年 **小型簡易血糖測定器 次世代の登場**

必要な血液量 ⇒ 20-30 μ L 血液の除去操作 ⇒ 拭き取り式

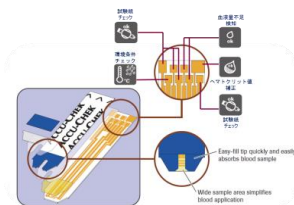
1991 年 **電極式 拭き取り不要の血糖測定器発売**

2010 年代 7 電極を有するアキチェックアビバナノ（当院採用血糖測定器）

必要な血液量 ⇒ 0.6 μ L（ゴマ粒大） 測定時間 ⇒ 5 秒



（1964 年血糖測定試験紙） （1974 年 AC アダプター） （1986 年 電池式）



（当院採用機器）

現在の SMBG は電極数を増やし、精度も向上しています。

<編集後記>



外出時にはマスクを使い、手洗い・うがいをしっかり行い
風邪やインフルエンザの予防に努めていきましょう。

発行元： 市立三次中央病院
糖尿病療養指導チーム
文責： 臨床検査技師（新山、日野原）